

2016年2月4日

本資料は2月4日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版です

クレディ・スイス、2015年通期業績及び2015年第4四半期業績を発表

- クレディ・スイス・グループの2015年通期の税引前損失は24億2,200万CHF、2015年第4四半期の税引前損失は64億4,100万CHFでした。この数値には、のれんの減損費用38億CHF、事業再編費用3億5,500万CHF、主要な訴訟関連項目(2015年通期:8億2,100万CHF、2015年第4四半期:5億6,400万CHF)、ストラテジック・リゾリューション・ユニット(SRU)における損失(2015年通期:25億1,000万CHF、2015年第4四半期:11億2,200万CHF)、自社債の公正価値(FVOD)の影響(2015年通期:2億9,800万CHFの利益、2015年第4四半期:6億9,700万CHFの損失)等、当グループの主要事業の業績を反映しない多額の費用が含まれています。
- クレディ・スイスの2015年通期のコア税引前利益は8,800万CHF、2015年第4四半期のコア税引前損失は53億CHFでした。調整後ベース*では、2015年通期のコア税引前利益は42億CHF、2015年第4四半期の税引前損失は4億CHFとなり、主要事業の業績と整合しています。当グループは、投資家が新戦略実行の進捗状況を監視できるように、2018年までは当グループ・レベル、コア・レベル及び事業レベルで、今回同様に調整後ベースでの四半期の業績を公表していきます。
- **新戦略の実施は好調な滑り出し:**
 - アジア太平洋部門(APAC)、スイス・ユニバーサル・バンク部門(SUB)及びインターナショナル・ウェルス・マネジメント部門(IWM)内のプライベート・バンキング事業という3つの新規部門の2015年第4四半期の調整後*税引前利益は、前年同期比でそれぞれ21%増、25%増及び4%増
 - 2015年通期の新規純資産はアジア太平洋部門とスイス・ユニバーサル・バンク部門でそれぞれ178億CHF、138億CHFと好調。2015年第4四半期はそれぞれ30億CHF、13億CHFのプラスの新規純資産を取得
 - 投資運用一任契約の普及率は、スイス・ユニバーサル・バンク部門では15%から26%に、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門では23%から30%に上昇
 - コスト削減プログラムの促進:2016年1月31日までに2018年目標である35億CHFのうちの34%に相当する12億CHFを達成
 - インベストメント・バンキング&キャピタル・マーケッツ部門(IBCM)の2015年第4四半期は、過去5年間で最も堅調な四半期(公表されたM&A取引ベース)
- **好調な業績はグローバル・マーケッツ部門(GM)の不振によって相殺されました。グローバル・マーケッツ部門では、2015年第4四半期は7億CHFの調整後*税引前損失、2015年通期は11億CHFの調整後*税引前利益を計上しました。**
 - 株式業務では、市場活動の減速及びラテンアメリカにおける厳しいマクロ環境にもかかわらず、2015年第4四半期には堅調な業績を達成
 - ボラティリティの高い市場環境、及び債券事業における多数の不良資産ポジションの信用スプレッド拡大によるマイナスの影響
- **不良資産問題への対応:**
 - 主に2000年のドナルドソン・ラフキン・アンド・ジェンレット(DLJ)買収に関連するのれんの減損
 - 収益のさらなるリスク低減及び固定費の削減に向けた債券事業の継続的な再編
 - 継続的な主要訴訟関連費用
 - コスト基盤の柔軟性向上に向けた報酬繰延率の低減
- **ルックスルーCET1比率は11.4%、ルックスルーCET1レバレッジ比率は3.3%**
- **取締役会は2015年において1株当たり0.70CHFの現金配当を提案。新株による受け取りも可能な株式配当選択権も提供。**

クレディ・スイスの最高経営責任者(CEO)のティージャン・ティアムは、次のように述べました。「10月21日以来、当グループは新たな戦略を規律をもって実施し、組織構造を刷新するとともに、増資を完了しました。増資については当グループの株主の皆様にご感謝申し上げます。当グループの3つの新たな地域部門にとっては、有益な成長を達成した良い年となりました。アジア太平洋部門、スイス・ユニバーサル・バンク部門及びインターナショナル・ウェルス・マネジメント部門のプライベート・バンキング事業の調整後*税引前利益は、前年同期比でそれぞれ21%増、25%増及び4%増となりました。2015年通期の新規純資産はアジア太平洋部門及びスイス・ユニバーサル・バンク部門でそれぞれ178億CHF、138億CHFと堅調で、2015年第4四半期はそれぞれ30億CHF、13億CHFとプラスが続きました。」

「この業績は、特に2015年第4四半期に厳しい環境が続いたにもかかわらず達成されました。2015年第4四半期にはボラティリティの高い市場環境、市場の流動性に対する圧力、原油価格の急落、信用スプレッドの拡大、金融政策の乖離に関連した不透明感の継続、及び資産価格に影響を及ぼした市場参加者による大規模なファンドの償還などが見られました。」

「当グループの3つの地域部門で達成された利益成長は、新興国と先進国双方におけるウェルス・マネジメントの魅力が長期的かつ持続的であることを如実に示しています。当グループのアジア太平洋部門は通期で記録的な調整後*税引前利益及び新規純資産を計上し、第4四半期には新規純資産の堅調な伸びが続きました。スイス・ユニバーサル・バンク部門の通期の調整後*税引前利益は、前年比で4%増、前年同期比で25%増となりました。インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門内のプライベート・バンキング事業の通期の調整後*税引前利益は6%増加しました。」

「インベストメント・バンキング&キャピタル・マーケッツ部門は、第4四半期に顧客活動の鈍化、並びに一部の引受及び法人向け銀行業務の評価下落によるマイナスの影響を受け、小幅な調整後*税引前損失を計上しました。当グループは過去の過小投資の影響に苦しむ当該事業の見直しを引き続き実行しています。目標を絞り込んだ投資の拡大に加え、アドバイザー及び株式引受業務並びに投資適格社債への当グループのビジネスモデルのシフトを通じて、この魅力的で資本負担の小さい事業における収益基盤の多様化及び収益のボラティリティの大幅な低下を目指しております。2015年第4四半期は、公表されたM&A取引ベースでは、当グループにとって過去5年間で最高の四半期となりました。2016年のパイプラインは、1月こそ市場環境が厳しかったものの、全体的に堅調です。」

「10月にはグローバル・マーケッツ部門を設立し、株式事業及び債券事業を統合一元管理のもとに置きました。現在、グローバル・マーケッツ部門は債券商品及び株式商品にまたがる当グループの顧客向けの完全に統合されたプラットフォームとして運営されています。これは当グループが追求している即時的な効率性及び有効性の向上につながるものです。株式事業は市場活動の減速及びラテンアメリカにおける厳しいマクロ環境にもかかわらず、2015年第4四半期は堅調な業績となりました。」

「債券事業で、グローバル・マーケッツ部門は、2015年第4四半期において流動性が乏しくスプレッドが大幅に拡大した市場セグメントに、大量の不良資産ポジションを保有しています。新戦略の発表以降、これらのポジションを積極的に削減してきましたが、それでも当四半期末時点で相当量のポジションが幾つか残っていたため、棚卸資産の評価損につながりました。債券事業については、変革に成功した当グループの株式事業と同様に、ボラティリティを低くし、棚卸資産への依存度を大幅に低減するべく、今後も力を注いで参ります。」

「当グループは、現在直面している特に厳しい環境を踏まえ、当四半期には銀行全体にわたる**コスト削減プログラムの実行を促進させる**ことを決断しました。固定費水準を恒常的に低減させる取り組みを特定し実行に移した結果、通期ランレートベースで年間5億CHFのコスト削減を達成しました。現在は約4,000名の人員削減(従業員、契約社員及びコンサルタントを含みます。)を進めています。当四半期に既に実行した施策(当グループの米国プライベート・バンキングの移転を含みます。)を合わせると、1月末までに実現可能なコスト削減の効果は年間12億CHFに上る見通しであり、これは2018年末までのコスト削減目標額である35億CHFの34%に相当します。」

当グループの見通しに関して、ティージャン・ティアムは次のように述べました。「ウェルス・マネジメント事業は当グループのインベストメント・バンキングの能力に支えられ、依然として他に類を見ない魅力的で長期的な収益分野です。これは、当グループが厳選した市場において個人及び法人顧客向けに価値を創出する上で有利なポジションにあるためです。そのため、当グループは2018年12月の目標達成までに残された35カ月の期間、規律をもって戦略の実施に引き続き取り組んで参る所存です。」

「2015年第4四半期には環境が明らかに著しく悪化し、金融市場及び世界経済において現行のネガティブなトレンドがいつ収まるのかは不透明です。」

「2015年第4四半期には、中国の経済成長をめぐる不透明感、原油価格の急落、企業による金融資産に係るミューチュアルファンドの大量償還、主要中央銀行の政策の乖離、流動性の低下、スイス・フラン高などの要因がすべて組み合わさり、顧客活動の低迷、発行水準の低下、及び一部の資産クラスの大幅な価格変動などの面で厳しい四半期となりました。こうした中でも、当グループは底堅い業績を達成することができました。」

「市場環境は2016年1月に入っても厳しい状態が続きました。マクロ経済の問題が根強く残る中、市場では2016年第1四半期の残りの期間を通じてボラティリティの高い状況が続くと予想されます。当グループは、2016年の後も盤石な体制を整えるため事業再編を引き続き進めていくことで、当グループの主要戦略を継続的に進展させる所存です。」

クレディ・スイス・グループの2015年通期ハイライト

- **クレディ・スイスの2015年通期の株主帰属純損失は29億4,400万CHF、税引前損失は24億2,200万CHFでした。税引前損失は以下の項目を反映しています。**
 - 年第4四半期ののれんの減損費用は37億9,700万CHFでした。これは2015年10月に発表された新たな戦略的方向性・構造・組織の結果を受けたものです。のれんの減損費用は主に、2000年のドナルドソン・ラフキン・アンド・ジェンレット買収に関連するものであり、グローバル・マーケット部門(26億6,100万CHF)、アジア太平洋部門(7億5,600万CHF)、インベストメント・バンキング&キャピタル・マーケット部門(3億8,000万CHF)の、インベストメントバンキング事業に関連する3部門にわたって認識されました。
 - 新戦略の実施に関連して、事業再編費用3億5,500万CHFが2015年第4四半期にすべての部門にわたって認識されました。
 - 他の項目としては、主要な訴訟関連項目8億2,100万CHF、ストラテジック・リゾリューション・ユニットにおける税引前損失25億1,000万CHF、自己債務の公正価値のプラスの影響額である2億9,800万CHFが挙げられます。
- 2015年10月21日に発表された新戦略の実施の進展と2018年目標の実行開始に伴い、主要事業における進捗状況を評価することが重要です。これを実行するにあたり、**調整後*コア業績**(ストラテジック・リゾリューション・ユニットの業績を除きます。)を重視しています。これは、のれんの減損費用、事業再編費用、不動産取引、事業の分離・売却、特定の主要な訴訟関連費用、ストラテジック・リゾリューション・ユニットの活動及び自己債務の公正価値の影響を除いて測定されます。当グループは、投資家が期中に発生した主要事業の業績を反映しない主要な事業再編費用その他の影響を踏まえた上で、当グループの新戦略実行の進捗状況を監視できるように、2018年までは当グループ・レベル、コア・レベル及び事業レベルで今回と同じ調整後ベースでの四半期の業績を公表していく方針です。英語版メディアリリースのAppendix(A-1からA-4ページ)の表において、当グループ、コアビジネス及び各部門における公表業績と調整後*業績の間の差異調整を示しています。
- **クレディ・スイスの2015年通期のコア税引前利益は、前年の72億CHFに対して8,800万CHFでした。調整後ベース*で見ると、コア税引前利益は前年の63億CHFに対して42億CHFでした。アジア太平洋部門、国際・ウェルス・マネジメント部門のプライベート・バンキング事業、スイス・ユニバーサル・バンク部門の調整後税引前利益は前年比でそれぞれ27%増、6%増及び4%増と好調でした。この好業績は、グローバル・マーケット部門の調整後*税引前利益が、ボラティリティの高い市場環境、及び債券事業における多数の不良資産ポジションの信用スプレッド拡大による悪影響によって、前年の27億CHFから11億CHFに減少したことで相殺されました。インベストメント・バンキング&キャピタル・マーケット部門の純収益は17%減少しましたが、これはアドバイザリー業務の収益増加が債券及び株式引受収益の減少を補い切れなかったことによるものでした。インベストメント・バンキング&キャピタル・マーケット部門では、成長計画の支援に向けた2015年の戦略的な雇用投資が利益にも影響を及ぼしました。**
- **2015年通期のコア新規純資産(NNA)は509億CHFと、前年の375億CHFから増加しました。これは、アジア太平洋部門で178億CHFに上る記録的な資産流入を計上したこと、及びスイス・ユニバーサル・バンク部門の業績が138億CHFと堅調だったことによるものでした。**
- **アジア太平洋部門では好調な成長モメンタムが続き、2015年通期の調整後*税引前利益は11億CHFとなり、10億CHFを初めて突破しました。バランスの取れた地域構成が功を奏し、すべての国々の事業で利益を計上しました。アジア太平洋部門は、インベストメント・バンキング事業及びプライベート・バンキング事業の緊密な連携によって、市場のボラティリティに引き続き耐え、特に新規純資産(178億CHF)及び超富裕層顧客に対する貸出増加という点で、2015年第4四半期も含めて堅調で底堅い業績を達成しました。リレーションシップ・マネージャーの採用は加速し、70名純増の590名となりました。2018年末までに約800名のリレーションシップ・マネージャーを採用する目標に向かって順調に進んでいます。収益の増加は、超富裕層及び富裕層個人顧客事業、並びに債券及び株式の販売及び取引業務の堅調な業績を反映したものであり、収益は全体で15%増加しました。これと並行して、営業費**

用合計は主要な採用とプラットフォーム強化に対する投資を反映して 11%増加しました。

- **スイス・ユニバーサル・バンク部門**の調整後*税引前利益は、前年比 4%増の 16 億 CHF と堅調でした。スイス・ユニバーサル・バンク部門は当グループの中で最大の税引前利益を達成し、当グループにとって信頼できる重要な収益貢献部門としての重要性を改めて示す形になりました。調整後*純収益は 3%増の 54 億 4,500 万 CHF となりました。これは安定的な平均貸出残高に対する利ざやが改善したことを反映し、インベスター・デーで説明した年間増収率 2%という意欲的な目標を上回りました。営業費用は、有給休暇引当金再調整による報酬費用の増加による悪影響を受けました。2015 年の貸倒引当金繰入額は 1 億 3,800 万 CHF と、過去最低水準近くにとどまりました。プライベート・バンキング及びコーポレート&インスティテューショナル・バンキングの両事業はこれらの好業績に寄与しました。特にコーポレート&インスティテューショナル・バンキング事業では、138 億 CHF に上る堅調な新規純資産を計上しました。プライベート・バンキング事業では、「クレディ・スイス・インベスト」の導入を通じてプライベート・バンキング事業のビジネスモデルを、投資運用一任を重視したモデルへとシフトする新戦略の結果、2015 年の投資運用一任契約の普及率が 15%から 26%へと上昇しました。市場環境が許せば 2017 年末までにクレディ・スイス（シュヴァイツ）エイ・ジーの一部(20%~30%)IPO を実行するとの計画については、順調に進んでいます。¹
- **インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門**の調整後*税引前利益は、前年比 16%減の 10 億 CHF でした。これは、プライベート・バンキング事業の調整後税引前利益が 6%増と堅調だったことを反映したものです。アセット・マネジメント事業は、オルタナティブ投資業界が金融危機以降最悪の年となったことを受けて、運用報酬の減少による影響を被りました。アセット・マネジメント事業の新規純資産は、年率 9%の伸びを反映して 265 億 CHF となり、このうちオルタナティブ投資が全体の 25%以上を占めました。プライベート・バンキング事業は厳しい市場環境の中で安定的な調整後収益を計上し、純利息収入は貸出残高増及び利ざやの上昇を背景に増加しました。また、「マルチアセットクラスソリューション」及び「クレディ・スイス・インベスト」を成功裏に導入した結果、2015 年末時点の投資運用一任契約の普及率は前年末の 23%から 30%に引き続き上昇しました。調整後ベース*で見ると、営業費用は前年比横ばいの 22 億 3,900 万 CHF となりました。西欧事業の再編及び「ハブ & スポーク戦略」モデルへの戦略的移行は順調に進んでいます。プライベート・バンキング事業の純資産流出額は 30 億 CHF となりましたが、これは完了が間近である規制化を背景とする西欧事業からの資産流出による影響を受けたものでした。規制化及び他の一時的な影響を除くと、プライベート・バンキング事業の新規純資産は 22 億 CHF でした。当グループは、成長市場で 150 名のリレーションシップ・マネージャーを新たに採用しており、今後も収益性の改善及び 2018 年の税引前利益目標額 21 億 CHF の達成に向けて、フランチャイズ事業への大規模な投資をさらに行う計画です。
- **インベストメント・バンキング & キャピタル・マーケッツ部門**の 2015 年通期の純収益は前年比 17%減の 18 億 CHF でした。これは、資本市場のボラティリティが債券及び株式の発行減につながったため、債券及び株式引受収益が減少したことによるものでした。引受収益の減少はアドバイザー収入の増加によって一部相殺されました。調整後*営業費用合計は主に市場ベースの給与の増加、成長計画のための戦略的な雇用への投資、並びにリスク管理・規制・コンプライアンス関連のインフラへの投資増加を背景に増加しました。インベストメント・バンキング & キャピタル・マーケッツ部門の 2015 年の調整後*税引前利益は、前年の 5 億 800 万 CHF に対して 4,900 万 CHF でした。
- **グローバル・マーケッツ部門**の 2015 年通期の収益は、前年比 14%減の 74 億 CHF でした。収益の減少は、厳しい市場環境、顧客活動の低迷、及び発行活動の低下によるものでした。特に債券販売及び取引業務の収益は、米国ハイイールド債市場の大幅な悪化が不良資産の在庫に影響を及ぼしたことを反映して、グローバル・クレジット商品の収益が大幅に減少したことを背景に減少しました。2015 年の費用は、リスク管理・規制・コンプライアンス関連のインフラ投資を背景に増加しました。従業員報酬及び給付費用は 3%増加しましたが、これは給与及びその他の報酬費用の増加並びに対スイス・フランの米ドル高による為替の影響を反映したものでした。米ドルベースで見ると、従業員報酬及び給付費用は 3%減少しました。これは、前年の任意費用の減少及び前年の繰延報酬の減少が、当年の繰延報酬率の削減費用の増加を上回ったことを反映したものでしたが、収益の減少を完全に補うには至らなかったため、グローバル・マーケッツ部門の 2015 年の公表調整後*税引前利益は、前年の 27 億 CHF に対して 11 億 CHF となりました。リスク加重資産及びレバレッジ・エクスポージャーは減少し、2015 年末の公表目標値を下回りました。

- 2015 年の損失継続及び当グループを取り巻く環境の持続的な不透明感を踏まえ、当グループは銀行の事業再編を促進させてきました。事業再編の促進に着手したことに伴い、約 4,000 名の人員を削減する結果となりました。2015 年第 4 四半期に既に実行した施策と合わせると、1 月末までに特定・実行されるコスト削減は年間 12 億 CHF に上る見通しであり、これは 2018 年までのコスト削減目標額である 35 億 CHF の 34%に相当します。当グループは、コスト削減策に加えて、損益分岐点を引き下げる方法を絶えず模索しています。この方針に従い、当グループは 2015 年の変動報酬総額を 11%削減しました。また、繰延報酬の削減を通じて過去の変動報酬が将来に及ぼす影響を低減させることで、柔軟性を高めることを目指しています。債券の不良資産ポジションをさらに削減し、信用市場の悪化が業務に及ぼす影響を低減させる中で、グローバル・マーケット部門の活動再編も引き続き進めています。
- **資本:** クレディ・スイスは、2015 年 12 月に私募及びライツ・オフリングを通じて増資を完了し、総額約 60 億 CHF の新規資本を調達しました。資本基盤の強化は、新戦略に沿った事業投資を可能にすると同時に、規制強化及び金融市場のボラティリティに引き続き留意するという点で、当行にとって重要な一歩となりました。クレディ・スイスの当四半期末時点のルックスルーのスイス国内レバレッジ比率は 5.2%、ルックスルーの BIS ティア 1 レバレッジ比率は 4.5%、CET 1 比率は 3.3%でした。

クレディ・スイスの当四半期末時点のルックスルー CET 1 比率は 11.4%と、前四半期末の 10.2%から上昇しました。今後、2018 年から 2019 年にかけて予想されるリスク加重資産調整の変更に対するバッファを構築し、CET 1 比率を約 13%に推移させる計画です。

- **配当:** 取締役会は 2016 年 4 月 29 日の年次株主総会で、2015 年の資本拠出準備金から 1 株当たり 0.70CHF の配当を提案する計画です。配当金はスイスの源泉徴収税を免除され、個人的な投資として株式を保有するスイスの個人居住者の場合、所得税の対象とはなりません。配当金は現金で支払われるか、又は株主の本国で適用される法規制に従って、株主の選択によってクレディ・スイス・グループの新株で支払われます。

2015 年 10 月に新戦略発表に関連して申し上げたとおり、クレディ・スイスは、2015 年～2018 年のルックスルー CET 1 比率及びレバレッジ比率の目標に達するまで、また、潜在的な規制変更及び訴訟リスクがさらに明らかになるまで、新株による受け取りも選択可能な株式配当選択権付きで 1 株当たり 0.70CHF の配当を提言する現行の政策を続行する予定です。ただし、2017 年までに株式配当選択権を撤廃し、全額現金配当へと移行する提言を行う方針です。さらに、長期的にはオペレーティング・フリー・キャピタルの 40%以上を分配することを目指しています。取締役会は今後、必要に応じて配当性向の引き上げを検討する方針です。

クレディ・スイス・グループの2015年第4四半期ハイライト

- クレディ・スイスの当四半期の株主帰属純損失は58億2,800万CHF、税引前損失は64億4,100万CHFでした。既に述べましたように、これらの業績は主に、のれんの減損費用37億9,700万CHF、新戦略の実行に関連する事業再編費用3億5,500万CHF、主要な訴訟関連項目5億6,400万CHF、ストラテジー・リゾリューション・ユニットの税引前損失11億2,200万CHF、自己債務の公正価値によるマイナスの影響の6億9,700万CHFによるものでした。
- コア部門の当四半期の新規純資産合計は44億CHFでした。これはスイス・ユニバーサル・バンク部門のコーポレート&インスティテューショナル・バンキング事業、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門のアセット・マネジメント事業、並びにアジア太平洋部門のプライベート・バンキング事業からの堅調な資金流入を反映したものです。これらの資金流入は、規制化も一因となったインターナショナル・ウェルス・マネジメント部門のプライベート・バンキング事業からの資金流出及びスイス・ユニバーサル・バンク部門のプライベート・バンキング事業からの資金流出によって、一部相殺されました。
- **アジア太平洋部門**の当四半期の調整後*税引前利益は1億4,800万CHFと、前年同期を21%上回りました。当四半期の純収益は前年同期比12%増の8億2,600万CHFとなりました。これは主に、プライベート・バンキング事業の着実な業績、並びに債券・株式販売及び取引の増加によるものでした。調整後*営業費用は新規雇用と成長投資の増加を反映して11%増の6億7,500万CHFとなりました。当四半期のアジア太平洋部門のプライベート・バンキング事業の新規純資産は、前年同期の16億CHFに対して30億CHFと堅調でした。2015年第4四半期には新戦略の一環として採用を促進させたため、リレーションシップ・マネージャーの人数は2014年末の520名から2015年末には590名に増加しました。
- **スイス・ユニバーサル・バンク部門**の当四半期の調整後税引前利益は3億3,600万CHFと、前年同期比で25%増加しました。調整後*純収益は、主にプライベート・バンキングとコーポレート&インスティテューショナル・バンキングの両事業の純利息収入の増加を背景に8%増となりました。信用動向は堅調に推移し、貸倒損失は個別ケースの数が限定的であったことを反映して小幅な増加にとどまりました。
プライベート・バンキング事業の調整後*税引前利益は、前年同期比40%増の1億4,100万CHFとなりました。投資一任契約の普及率は2014年末時点の15%から2015年末時点には26%に引き続き上昇しました。当四半期の純資産流出額は29億CHFで、これには特定のエクスターナル・アセット・マネージャー事業からの撤退(11億CHF)、規制化関連の資金流出(3億CHF)、並びに現預金の最適化及び季節要因(3億CHF)が含まれています。コーポレート&インスティテューショナル・バンキング事業の調整後*税引前利益は、前年同期比16%増の1億9,500万CHFとなりました。これは平均貸出残高が小幅に減少したものの利ざやが上昇したことによる純利息収入の増加を反映しています。新規純資産の創出は2015年を通じて引き続き促進され、当四半期は42億CHFと前年同期比で17%増加しました。
- **部門**の当四半期の調整後純収益は11億3,500万CHF、調整後税引前利益は前年同期の3億5,600万CHFに対して2億3,000万CHFとなりました。インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門のアセット・マネジメント事業における当四半期の調整後税引前利益は、前年同期の1億7,300万CHFに対して3,900万CHFとなりました。これは、ヘッジング・グリフォからベルデ・アセット・マネジメントへの資産運用の変更を受け、運用報酬及び成功報酬の減少並びに資産運用手数料の減少によるものでした。インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門のプライベート・バンキング事業の2015年第4四半期の調整後*税引前利益は1億9,100万CHFと、前年同期比で4%増加しました。調整後*収益は2%減の7億7,100万CHF、調整後*営業費用は前年同期比2%減の5億8,800万CHFとなりました。インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門のプライベート・バンキング事業の当四半期の純資産流出額は、主にイタリアを中心とする規制化関連の資金流出を背景に、42億CHF増加しました。当四半期の規制化の影響と一回限りの影響を除くと、事業による資産流入額は2億CHFとなり、新興国市場における純資産流入額12億CHFが欧州における純資産流出額10億CHFによって相殺された形となりました。
- **グローバル・マーケット部門**の当四半期の純収益は11億2,700万CHFでした。純収益は、特に債券業務における厳しい事業環境を反映して、前年同期比37%減の大幅減少となりました。信用サイクルの転換と利回りスプレッドの大幅な拡大が、顧客活動の低下及び大幅な値洗損失につながりました。当四半期の株式販売及び取引業務

は厳しい市場環境を反映して低迷しました。当四半期の調整後*費用は27%増の17億8,600万CHFとなりました。これは、引当報酬発生時期に起因する報酬費用の増加、変動報酬の繰延率の低下、リスク管理・規制・コンプライアンス関連の継続的なインフラ投資、並びに事業再編・訴訟・運営費用の増加によるものでした。同部門の調整後*税引前損失は6億5,800万CHFでした。

- **インベストメント・バンキング&キャピタル・マーケッツ部門**の当四半期の純収益は4億300万CHFでした。これに対して前年同期は5億400万CHF、前四半期は3億7,900万CHFでした。前年同期比で見ると、収益は債券引受収益の減少がアドバイザリー収益の増加によって一部相殺された形となりました。当四半期は引受及びコーポレート・バンク・ポートフォリオの評価減による影響も受けました。当四半期のアドバイザリー件数は前年同期比で128%増加しました。当四半期の調整後*費用は、引当報酬発生時期及び変動報酬に適用される繰延率の低下によって、前年同期比で36%増加しました。のれん及び事業再編費用控除前の調整後*税引前損失は9,500万CHFでした。

2015年の主な受賞実績

Euromoney Private Banking Survey	Best private bank for Central and Eastern Europe and the Middle East Best Investment Bank in Switzerland
Professional Wealth Management Magazine and The Banker	Best Private Bank in Russia Best Private Bank in the Middle East Best initiative of the year in client-facing technology
Asian Private Banker's Awards for Distinction 2015	Best Private Bank in Asia Best Private Bank for Australia Best International Private Bank for Malaysia and Thailand など7賞
7th Private Banker International Greater China Awards (held in Hong Kong)	Best Private Bank Taiwan (Foreign) Best Next Generation Offering
PAM Awards UK	2015 Private Asset Managers (PAM) UK Award
Euromoney	Best Investment Bank in Switzerland
IFR	Swiss Franc Bond House of the Year Global Structured Finance House of the Year Americas Equity House of the Year
FinanceAsia	Best IPO
Dealogic's bookrunner ranking for US-listed equity capital market deals 2015	第3位

* 調整後業績は、非 GAAP の財務指標です。最も直接的に比較可能な米国 GAAP 財務指標に対する調整後業績の差異調整については、2月4日に発表された英語版メディアリリースの Appendix における調整項目の調整後数値をご参照下さい。

注 1:かかる IPO はいずれも、少数株主持分の販売を含み、特に、すべての必要な承認を取得することを条件とし、クレディ・スイス銀行又はクレディ・スイス(シュヴァイツ)エイ・ジーの追加資本を創出/調達するために行うものです。]

サマリー・クレディ・スイス・グループ業績

	期中／期末			増減率(%)		期中／期末		増減率(%)
	4Q15	3Q15	4Q14	QoQ	YoY	2015	2014	YoY
業績(百万 CHF)								
純収益	4,210	5,985	6,372	(30)	(34)	23,797	26,242	(9)
貸倒引当金繰入額	133	110	75	21	77	324	186	74
従業員報酬及び給付費用	3,149	2,507	2,621	26	20	11,546	11,334	2
その他の営業費用合計	7,369	2,516	2,784	193	165	14,349	11,095	29
営業費用合計	10,518	5,023	5,405	109	95	25,895	22,429	15
税引前利益／(損失)	(6,441)	852	892	-	-	(2,422)	3,627	-
調整後税引前利益／(損失)	(1,134)	432	473	-	-	2,124	5,005	(58)
株主帰属純利益／(損失)	(5,828)	779	691	-	-	(2,944)	1,875	-
指標(%)								
自己資本利益率(%)	(51.3)	7.1	6.2	-	-	(6.8)	4.4	-
費用／収入比率	249.8	83.9	84.8	-	-	108.8	85.5	-

資本・レバレッジ指標

期末現在	段階的实施			ルックスルー		
	4Q15	3Q15	4Q14	4Q15	3Q15	4Q14
資本指標(表示がないものは%)						
リスク加重資産(十億 CHF)	295.0	290.1	291.4	289.9	284.6	284.2
CET1 比率	14.3	14.0	14.9	11.4	10.2	10.1
ティア 1 比率	18.0	16.8	17.1	15.4	14.3	14.0
自己資本比率	21.3	20.1	20.8	17.7	16.7	16.5
レバレッジ指標(表示がないものは%)						
レバレッジ・エクスポージャー(十億 CHF)	993.5	1,050.7	1,157.6	987.6	1,044.9	1,149.7
BIS CET1 レバレッジ比率	4.2	3.9	3.7	3.3	2.8	2.5
BIS ティア 1 レバレッジ比率	5.3	4.6	4.3	4.5	3.9	3.5
スイス国内レバレッジ比率	6.3	5.5	5.2	5.2	4.5	4.1

サマリー・コア業績

	期中／期末			増減率(%)		期中／期末		増減率(%)
	4Q15	3Q15	4Q14	QoQ	YoY	2015	2014	YoY
業績(百万 CHF)								
純収益	4,189	5,995	6,419	(30)	(35)	23,384	25,074	(7)
貸倒引当金繰入額	40	89	55	(55)	(27)	192	153	25
従業員報酬及び給付費用	2,912	2,242	2,332	30	25	10,529	10,252	3
その他の営業費用合計	6,556	2,172	2,049	202	220	12,575	7,469	68
営業費用合計	9,468	4,414	4,381	114	116	23,104	17,721	30
税引前利益／(損失)	(5,319)	1,492	1,983	-	-	88	7,200	(99)
指標(%)								
自己資本利益率(%)	(48.9)	13.3	17.0	-	-	0.2	15.5	-
費用／収入比率	226.0	73.6	68.3	-	-	98.8	70.7	-

注: 上記コア業績には、ストラテジック・リゾリューション・ユニットの収益及び費用は含まれておりません。

サマリー—スイス・ユニバーサル・バンク部門

	期中／期末			増減率(%)		期中／期末		増減率(%)
	4Q15	3Q15	4Q14	QoQ	YoY	2015	2014	YoY
業績(百万 CHF)								
純収益	1,470	1,320	1,709	11	(14)	5,563	5,721	(3)
うちプライベート・バンキング	953	839	1,249	14	(24)	3,633	3,914	(7)
うちコーポレート&インスティテューショナル・バンキング	517	481	460	7	12	1,930	1,807	7
貸倒引当金繰入額	43	39	29	10	48	138	94	47
営業費用合計	1,060	887	973	20	9	3,766	3,651	3
税引前利益	367	394	707	(7)	(48)	1,659	1,976	(16)
うちプライベート・バンキング	166	201	539	(17)	(69)	869	1,228	(29)
うちコーポレート&インスティテューショナル・バンキング	201	193	168	4	20	790	748	6
指標(%)								
規制資本利益率	12.5	13.3	23.7	—	—	13.8	16.5	—
費用／収入比率	72.1	67.2	56.9	—	—	67.7	63.8	—
運用資産(十億 CHF)								
プライベート・バンキング	241.0	237.1	258.6	1.6	(6.8)	241.0	258.6	(6.8)
コーポレート&インスティテューショナル・バンキング	275.8	263.1	275.9	4.8	—	275.8	275.9	—
新規純資産(十億 CHF)								
プライベート・バンキング	(2.9)	3.1	0.1	—	—	3.2	3.8	—
コーポレート&インスティテューショナル・バンキング	4.2	1.9	3.6	—	—	10.6	5.5	—
運用資産に対するグロスマージン(年率、bp)								
プライベート・バンキング	157	138	193	—	—	146	153	—
運用資産に対するネットマージン(年率、bp)								
プライベート・バンキング	27	33	83	—	—	35	48	—

サマリー—インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門

	期中／期末			増減率(%)		期中／期末		増減率(%)
	4Q15	3Q15	4Q14	QoQ	YoY	2015	2014	YoY
業績(百万 CHF)								
純収益	1,146	1,050	1,350	9	(15)	4,394	4,751	(8)
うちプライベート・バンキング	782	742	867	5	(10)	3,066	3,127	(2)
うちアセット・マネジメント	364	308	483	18	(25)	1,328	1,624	(18)
貸倒引当金繰入額	(8)	11	7	—	—	3	12	(75)
営業費用合計	1,174	847	920	39	28	3,682	3,527	4
税引前利益／(損失)	(20)	192	423	—	—	709	1,212	(42)
うちプライベート・バンキング	(56)	151	250	—	—	526	795	(34)
うちアセット・マネジメント	36	41	173	(12)	(79)	183	417	(56)
指標(%)								
規制資本利益率	(1.7)	17.0	37.7	—	—	15.5	27.0	—
費用／収入比率	102.4	80.7	68.1	—	—	83.8	74.2	—
運用資産(十億 CHF)								
プライベート・バンキング	289.6	286.5	323.7	1.1	(10.5)	289.6	323.7	(10.5)
アセット・マネジメント	321.3	314.6	305.2	2.1	5.3	321.3	305.2	5.3
新規純資産(十億 CHF)								
プライベート・バンキング	(4.2)	1.7	2.0	—	—	(3.0)	7.3	—
アセット・マネジメント	3.6	5.6	(8.6)	—	—	26.5	6.5	—
運用資産に対するグロスマージン(年率、bp)								
プライベート・バンキング	106	101	108	—	—	102	101	—
運用資産に対するネットマージン(年率、bp)								
プライベート・バンキング	(8)	20	31	—	—	17	26	—

サマリー—アジア太平洋部門

	期中／期末			増減率(%)		期中／期末		増減率(%)
	4Q15	3Q15	4Q14	QoQ	YoY	2015	2014	YoY
業績(百万 CHF)								
純収益	826	885	736	(7)	12	3,839	3,335	15
うちプライベート・バンキング	271	303	273	(11)	(1)	1,178	1,037	14
うちインベストメント・バンキング	555	582	463	(5)	20	2,661	2,298	16
貸倒引当金繰入額	3	24	5	(88)	(40)	35	40	(13)
営業費用合計	1,440	699	609	106	136	3,427	2,395	43
税引前利益／(損失)	(617)	162	122	—	—	377	900	(58)
うちプライベート・バンキング	48	69	67	(30)	(28)	344	310	11
うちインベストメント・バンキング	(665)	93	55	—	—	33	590	(94)
指標(%)								
規制資本利益率	(49.6)	12.5	7.1	—	—	6.7	13.1	—
費用／収入比率	174.3	79.0	82.7	—	—	89.3	71.8	—
プライベート・バンキング								
運用資産 (単位:十億 CHF)	150.4	139.1	150.5	—	—	150.4	150.5	—
新規純資産 (単位:十億 CHF)	3.0	3.7	1.6	—	—	17.8	17.5	—
運用資産に対するグロスマージン(年率、bp)	72	84	73	—	—	79	76	—
運用資産に対するネットマージン(年率、bp)	13	19	18	—	—	23	23	—

サマリー—グローバル・マーケッツ部門

	期中／期末			増減率(%)		期中／期末		増減率(%)
	4Q15	3Q15	4Q14	QoQ	YoY	2015	2014	YoY
業績(百万 CHF)								
純収益	1,127	1,634	1,779	(31)	(37)	7,391	8,613	(14)
貸倒引当金繰入額	(1)	14	11	—	—	13	7	86
営業費用合計	4,602	1,451	1,403	217	228	9,322	5,949	57
税引前利益／(損失)	(3,474)	169	365	—	—	(1,944)	2,657	—
指標(%)								
規制資本利益率	(83.4)	3.7	7.2	—	—	(10.0)	14.0	—
費用／収入比率	408.3	88.8	78.9	—	—	126.1	69.1	—

サマリー—インベストメント・バンキング & キャピタル・マーケッツ部門

	期中／期末			増減率(%)		期中／期末		増減率(%)
	4Q15	3Q15	4Q14	QoQ	YoY	2015	2014	YoY
業績(百万 CHF)								
純収益	403	379	504	6	(20)	1,752	2,106	(17)
貸倒引当金繰入額	3	0	0	—	—	3	(2)	—
営業費用合計	897	335	365	168	146	2,102	1,600	31
税引前利益／(損失)	(497)	44	139	—	—	(353)	508	—
指標(%)								
規制資本利益率	(78.4)	7.3	26.8	—	—	(15.0)	26.2	—
費用／収入比率	222.6	88.4	72.4	—	—	120.0	76.0	—

サマリー—ストラテジック・リゾリューション・ユニット

	期中／期末			増減率(%)		期中／期 末		増減率(%)
	4Q15	3Q15	4Q14	QoQ	YoY	2015	2014	YoY
業績(百万 CHF)								
純収益	21	(10)	(47)	—	—	413	1,168	(65)
貸倒引当金繰入額	93	21	20	343	365	132	33	300
営業費用合計	1,050	609	1,024	72	3	2,791	4,708	(41)
税引前損失	(1,122)	(640)	(1,091)	75	3	(2,510)	(3,573)	(30)
貸借対照表指標(十億 CHF)								
リスク加重資産	61.6	61.6	65.1	0	(5)	61.6	65.1	(5)
レバレッジ・エクスポージャー	138.2	155.5	219.1	(11)	(37)	138.2	219.1	(37)